



協会の概要

◆ 目的

兵庫県における創造的な科学技術の振興を総合的に推進するとともに、西播磨テクノポリス地域高度技術産業集積活性化計画で定められた地域を中心に高度技術に立脚した工業開発を促進し、もって魅力ある地域社会の建設及び国際社会の発展に寄与する。

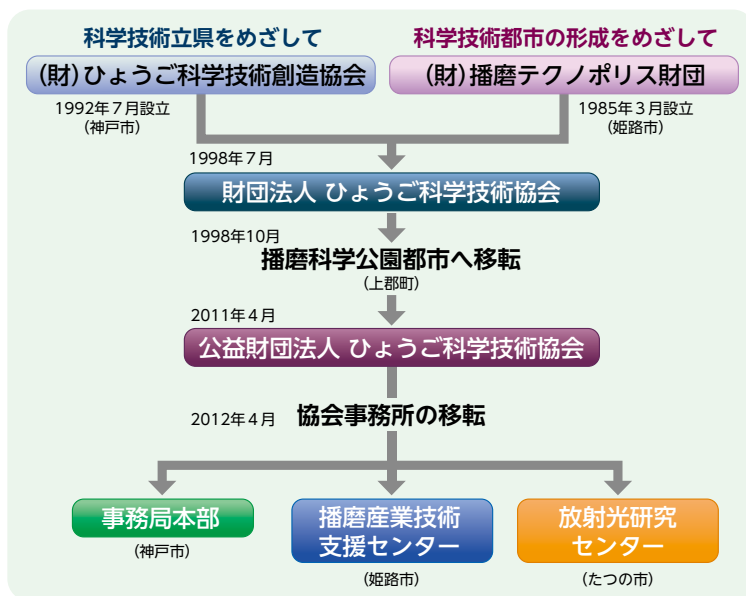
◆ 沿革

- 〈1992年7月1日〉
 - 財団法人ひょうご科学技術創造協会設立
- 〈1998年7月1日〉
 - 財団法人播磨テクノポリス財団と統合し、「財団法人ひょうご科学技術協会」に名称変更
- 〈2011年4月1日〉
 - 公益財団法人への移行

◆ 基本財産等

- 基本財産 2億円
- 科学技術振興基金 39.4億円
- 播磨産業活性化基金 9.5億円

《沿革図》



《組織図》



理事長ごあいさつ

本協会は、兵庫における科学技術振興の中核的機構として、科学技術の振興を通じて県民生活の向上と地域社会の発展に貢献することを目的に、各方面の多くの方々のご支援によって1992年7月に設立されました。1998年7月には財団法人播磨テクノポリス財団と統合、さらに2011年4月に公益財団法人へ移行し、2022年7月、設立30周年を迎え、新たなステージに向けて進んでいるところです。

この間、科学技術の学術的な基礎的・基盤的研究から応用・実用化研究まで各種の研究活動を支援する研究助成事業、地域産業の活性化と技術高度化を図るための産学官の連携・交流の促進、次世代を担う青少年の科学技術への関心と正しい理解を促進するための科学技術の普及啓発事業など、科学技術の振興に資する事業に幅広く取り組んで来ました。

今後とも兵庫県内にある世界最高レベルの科学技術基盤を活かした産業活性化と技術の高度化、また、科学技術の普及啓発を通じた未来ある科学技術人材の育成が必要なものとして認識しております。

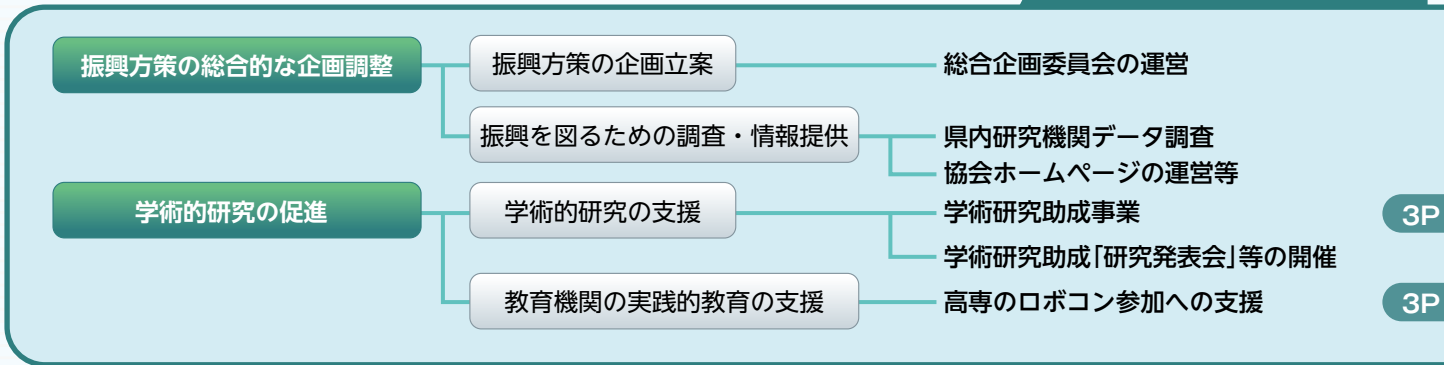
これからも皆様のご期待に添えるよう、新しい時代の変化に対応し、今後とも一層力を尽くしてまいりますので、皆様方の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



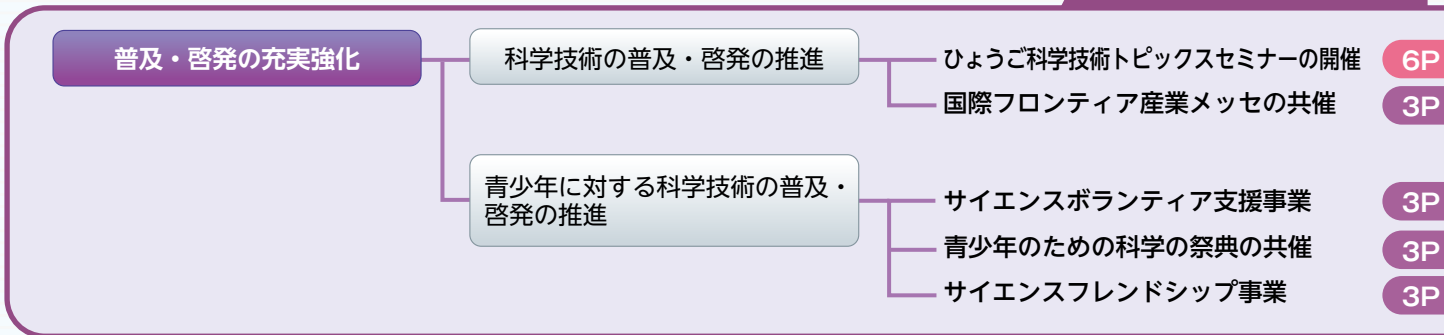
公益財団法人
ひょうご科学技術協会
理事長 畑 豊

事業の体系表

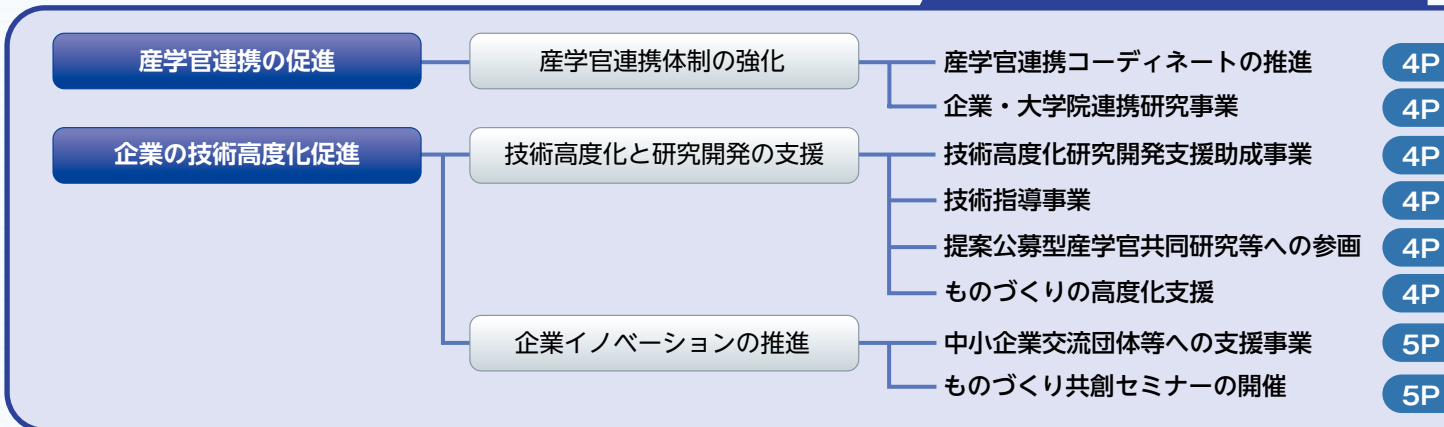
科学技術の総合的な振興



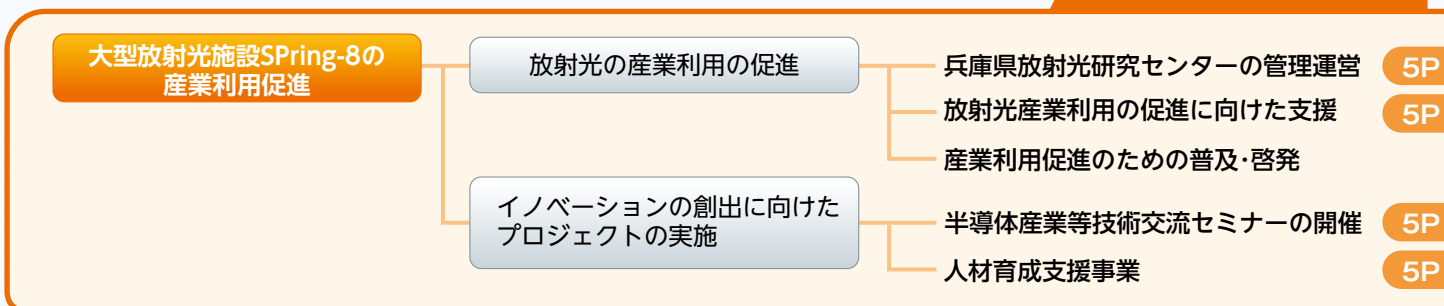
科学技術の普及・啓発



地域産業の技術開発力の強化・育成



放射光研究開発の支援



【学術的研究の支援】

学術研究助成事業

基礎的・基盤的な研究から産業の高度化に貢献する応用的・実用的な研究及び若手研究者による創造的・萌芽的研究を奨励するため、研究資金を助成しています。

区 分	通常枠
対 象 者	兵庫県内に在勤・在学または在住する研究者・技術者
助 成 額	100万円以内/件
助成件数	30件程度/年

※助成対象の4つの分野(系)

医学・薬学・看護系	理学系
生命科学・農学系	工学・情報・学際系

〈お問い合わせ〉 事業課 TEL.078-362-3845

【教育機関の実践的教育の支援】

高専のロボコン参加への支援

工業高等専門学校の実践的教育として認知度の高いアイデア対決・全国高等専門学校「ロボットコンテスト」への参加費用を助成し、全国大会への出場やロボコン大賞の獲得を支援しています。

【科学技術の普及・啓発の推進】

国際フロンティア産業メッセの共催

兵庫経済を牽引する新産業の創造を推進し、国際的な技術・ビジネス交流を加速させるため「国際フロンティア産業メッセ」を関係機関とともに共催しています。

また、当協会の支援により技術開発や商品開発に取り組んでいる企業や県内大学・高専に参加を呼びかけ、「ひょうご科学技術協会グループ」として出展し、開発製品や研究内容などを広く発信しています。



国際フロンティア産業メッセ

【青少年に対する科学技術の普及・啓発の推進】

サイエンスボランティア支援事業

自然科学系の教育者、研究者及びそのOB等が、主として小学校高学年から中学生及び青少年に理科を教える教育者等を対象に、学校、企業、地域で行う実験教室などの科学学習分野におけるボランティア活動に対して、助成金を交付しています。

対象経費	旅費交通費、通信運搬費、消耗品費、印刷製本費、使用料、謝金、保険料費等
助 成 額	1件につき、20万円を限度



事業活動の様子

〈お問い合わせ〉 企画調整課 TEL.078-362-3845

青少年のための科学の祭典の共催

楽しい科学実験や科学工作などを通じ、子どもたちが自ら体験し、科学に対する興味や関心を高めるため、「青少年のための科学の祭典」を県内5会場（神戸・東はりま・姫路・豊岡・丹波）において関係団体と共に開催しています。

サイエンスフレンドシップ事業

大学生・大学院生がサイエンスフェアで、研究内容、学生生活の魅力などを高校生にアドバイスをを行うサイエンスカフェなどを関係団体と協力して開催しています。

播磨産業技術支援センター

播磨産業技術支援センターでは、播磨地域の産業活性化と技術高度化を図るため、技術参与やシニアアドバイザー等を配置し、大学や公的研究機関等と地域産業の交流・連携を促進し、高度技術の開発又は利用による新事業の創出や新分野への進出を支援しています。

【産学官連携体制の強化】

産学官連携コーディネートの推進

専門人材を配置し、大学等の研究機関の研究開発シーズと企業の研究開発ニーズのマッチングのサポートや産学連携による共同研究のコーディネートを推進するなど、産学官の連携を促進しています。

企業・大学院連携研究事業

県内大学の大学院生の資質向上や県内企業の活性化、技術の向上を図るため、大学院生が行う県内企業との産学共同研究を支援しています。

【技術高度化と研究開発の支援】

技術高度化研究開発支援助成事業

播磨地域に事業所を有する中小企業等が、新分野進出や新事業創出を図るために取り組む新技術・新製品の研究開発事業に対し、助成金を交付しています。

対象者の資格	播磨地域に事業所を有する企業または個人事業者
助成額	対象経費の合計額の2分の1以内の額とし、1件につき150万円を限度
対象経費	助成対象事業に直接必要な経費（消耗品費・旅費交通費・研究委託費等）
助成件数	4件程度

〈お問い合わせ〉 播磨産業技術支援センター TEL.079-287-1212

技術指導事業

播磨地域の中小企業が抱える多種多様な技術課題について速やかに対処・解決するため、機械や化学などの専門家が技術相談・指導を行っています。

〈お問い合わせ〉 播磨産業技術支援センター TEL.079-287-1212



機器講習会の様子

提案公募型産学官共同研究等への参画

企業の新技術や新製品開発を目的とし、国及び県等の各種提案公募型産学官共同研究を積極的に推進するため、研究チームの代表機関として、成長産業育成のための研究開発支援事業などへ参画しています。

〈お問い合わせ〉 播磨産業技術支援センター TEL.079-287-1212

ものづくりの高度化支援

ものづくり支援センター播磨の管理運営の委託を受けて、中小企業のものづくりの高度化を推進するとともに、走査型電子顕微鏡等ものづくり関連機器の管理運営及び技術指導などを行っています。

設置場所	播磨産業技術支援センター（姫路商工会議所内）
機器名	走査型電子顕微鏡（X線分析装置付）

〈お問い合わせ〉 播磨産業技術支援センター TEL.079-287-1212

【企業イノベーションの推進】

中小企業交流団体等への支援事業

中小企業交流団体等が播磨地域の産業技術高度化を図るため実施する講演会・研修会等、技術交流に係る各種事業を支援しています。

ものづくり共創セミナーの開催

産学官の共創による持続可能な地域活性化に貢献するため、ものづくりの高度化や新産業の創出に繋がる技術・情報を紹介するセミナー等を、関係団体と共に開催します。



ものづくり共創セミナーの様子

兵庫県放射光研究センター

大型放射光施設SPring-8を取り巻く環境の変化に的確に対応し、データ科学の活用をはじめ新たな放射光産業利用の取り組みを推進するため、兵庫県及び関係機関と連携しながら、放射光関連業務を実施しています。

【放射光の産業利用の促進】

兵庫県放射光研究センターの管理運営

兵庫県放射光研究センターは、兵庫県が産業利用の支援拠点としてSPring-8に近接して設置した施設です。この兵庫県放射光研究センターの管理運営を通じて、多様な支援を行っています。

放射光産業利用の促進に向けた支援

放射光の産業利用を一層促進するため、兵庫県放射光研究センターを拠点とし、アドバイザーを配置して各種展示会等への出展や県内企業への訪問による相談・助言の実施などSPring-8等の新規ユーザーの掘り起こしに取り組んでいます。

〈お問い合わせ〉 事業課 TEL.078-362-3053



兵庫県放射光研究センター

【イノベーションの創出に向けたプロジェクトの実施】

半導体産業等技術交流セミナーの開催

半導体・蓄電池関連企業等を主な対象とし、県の強み(科学技術基盤、研究機関の立地等)や潜在力を活かした研究開発を促進するため、産学官の連携強化を図る技術交流セミナーを開催します。

人材育成支援事業

半導体分野に早い段階から興味・関心を高めるため、高校生等を対象とした半導体講座を実施します。

第43回ひょうご科学技術トピックスセミナー

「南極地域観測隊長に聞く！ 極域海洋の生物地球化学研究」

一般県民を対象として、科学技術の各分野における第一人者を講師に招き、最先端の話題をテーマにわかりやすく解説するセミナーを開催しています。



講師
 東京大学大気海洋研究所
 附属国際・地域連携研究センター
 教授 原田尚美氏

【PROFILE】

専門は生物地球化学。北太平洋高緯度域の海底堆積物に記録された過去の海洋環境変遷を明らかにする研究や北極海の水氷減少にともなう海洋生態系の応答を明らかにする研究を行ってきた。第33次南極地域観測隊夏隊、第60次南極地域観測隊副隊長兼夏隊、第66次南極地域観測隊長兼夏隊長として3回の南極観測を経験。

地球温暖化と北極・南極

北極は北半球平均の2.7倍強く温暖化の影響を受けており、今一番温暖化が激しく起きている場所と言える一方、南極への影響は他の地域とほぼ変わりません。

海水を比較すると、北極は1970年代から徐々に面積が少なくなっている一方、南極は減少傾向は見られず数年スケールで増減を繰り返していたのですが、2014年を境に急激に減り始めました。

大気中で増加している二酸化炭素が海に溶け、吸収されることで酸性に傾く「海洋酸性化」という問題も起きています。海洋が酸性化すると、貝類や甲殻類など炭酸カルシウムを骨格に持つ生物の殻を溶かしたり作りにくい状況になります。北極海では、海洋酸性化がかなり進行しています。

10年ほど前、北極海で採取した生物の骨格密度を定量的に評価しようと考え、SPring-8でナノレベルのX線CTを使ってデータを取ったところ、高解像度で炭酸カルシウム密度の定量解析、いわゆる骨粗鬆症具合を評価できることがわかり、X線CTによる酸性化の定量評価手法の確立に結びつきました。当時勤めていた研究機関にマイクロメートルレベルで測定可能なX線CTを導入し、北極海で採取した翼足類の炭酸カルシウムの殻を測定すると、10月から11月のたったひとりで骨格密度が約4割ほど低下していることがわかりました。また、1年間の係留で得られた翼足類の骨格密度を測定すると、海氷が解ける夏と、その直後の結氷期の2回、骨格密度が非常に低くなる季節変化を示すことがわかりました。

一方、南極では大陸の上に地球上の9割の氷が氷床として堆積していますが、大陸周辺の氷床を取り囲んでストッパーの役割を果たしている海氷が、最近、急激に失われつつあり、大陸氷床の末端部が海洋に流出しやすくなっています。大陸氷床の流出が激甚化すると、世界中の海面水位をメートル単位で上昇させ、標高が低い大都市や島が水没しかねません。日本から遠いところにある南極ですが、その影響は大都市にも大きなインパクトを与えます。

第66次隊ではどんな活動をしたか

「しらせ」に乗って南極に向かう「本隊」は活動期間がレグ1とレグ2に分かれていました。レグ1では、昭和基地や南極大陸沿岸域での活動を行いました。観測系隊員は昭和基地周辺や南極大陸沿岸での各種観測を実施している中、設営系の作業も重要で、食料や燃料の輸送、消防訓練や停電からの復旧訓練、先輩隊からの仕事の引き継ぎなどを実施しました。

「先遣隊」のミッションは、大気中二酸化炭素濃度の変遷を解析することを目的とし、ドームふじ観測拠点で非常に長く古い時代の気体ガスを閉じ込めている柱状の氷のサンプルを採取しました。約540メートルの深さまでの掘削に成功しました。あと2年かけて2700メートルまで掘り進める計画です。

「本隊」のレグ2では、「しらせ」を使って海洋観測を行いました。現場は氷床の融解が進んでいるトッテン氷河沖です。沖合の温かい海水が、氷床を底面から融解しているという仮説があり、これを検証するための観測を行いました。また、海と氷床の相互作用を海洋物理・化学・生物と統合的に理解することも重要で、海水の採取やプランクトンネット観測、各種センサーによる海洋観測などを実施しました。結果、想定した暖かい海水の通り道をトレースしながら観測を行うことができました。

極地でのリーダーシップ

隊長として配慮したことは2つありました。ひとつは多様性を高めること。もうひとつは、アンコンシャスバイアス＝「無意識の偏見」についてよく考えながら行動することです。南極地域観測隊といえば、屈強な男性がいるチーム、そのリーダーは男性という固定観念が強いだろうなと思いつつ、女性リーダーが隊員たちに受け入れられるにはどう行動するべきかと模索しながらの活動でした。また、無意識の偏見は、急いでいるとき、すごく疲れているとき、グループの構成に偏りがある場合、情報が不十分な場合に言動として出やすく、まさに南極地域観測隊に当てはまり、ハラスメントを生む背景になりがちです。そうすると、個人が萎縮してしまって、その能力をフルに発揮できなくなります。ですので、この無意識の偏見を取り払うことに強く意識を向けて活動を行ってきました。皆さん夢を実現させるために南極に来ている人ばかりです。ようやく辿り着いた南極を楽しんでほしい。そう考えると、やはり心身健康で、高い満足感を持って活動してもらうことを大切にしたいと思いました。

開催概要

日時：2026年1月24日(土) 14:00～15:45

場所：神戸マリオットホテル

参加人数：71人

公益財団法人
ひょうご科学技術協会
 Hyogo Science and Technology Association
<https://hyogosta.jp/>

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
 (兵庫県庁1号館7階)

【企画調整課・事業課】

TEL.078-362-3845 FAX.078-362-3851

【播磨産業技術支援センター】

〒670-8505 兵庫県姫路市下寺町43番地
 (姫路商工会議所本館2階)

TEL.079-287-1212 FAX.079-287-1220

【放射光研究センター】

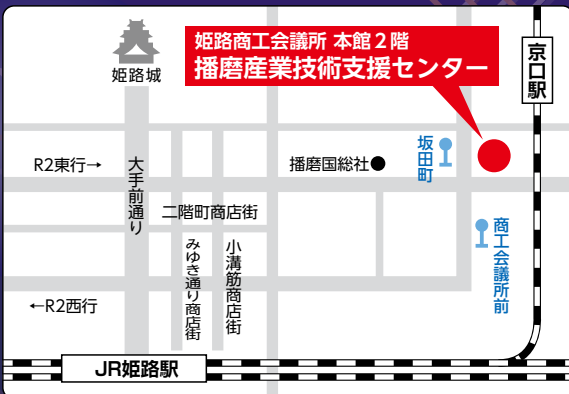
〒679-5165 兵庫県たつの市新宮町光都1丁目490-2
 (大型放射光施設SPring-8敷地内)

<https://www.hyogo-bl.jp/>



〈アクセス〉

- JR / 元町駅下車 西口北へ徒歩8分
- 阪神 / 元町駅下車 西口北へ徒歩8分 ● 市営地下鉄 / 県庁前駅下車すぐ



〈アクセス〉 JR姫路駅よりバス・徒歩でお越しの場合

- 神姫バス / 日出町行乗車→商工会議所前下車
- 東姫路駅・阿保車庫行乗車→商工会議所前下車
- 鹿島神社行、夕陽ヶ丘行、別所駅行乗車→坂田町下車
- 徒歩 / 所要時間20分程度



〈アクセス〉 JR相生駅、JR播磨新宮駅よりバスでお越しの場合

- (株)ウイング神姫/SPring-8行乗車